

吹田民主商工会

いんぷおめ〜しよん

吹田市川園町20-1
TEL (06) 63883-2211
FAX (06) 63882-8190
http://www.suita-minshou.com
suita-ms@jasmine.ocn.ne.jp

毎週木曜日の
昼2時・夜7時
なんでも相談会

マスコミ報道によると安倍首相は臨時国会冒頭に衆院を解散する意向を固めた模様です。総選挙の日程は「10月10日公示―同22日投開票」、「10月17日公示―同29日投開票」のどちらかではないかと言われています。

す。「戦争できる国」にさせないとの国民の意思を示す選挙にしましょう。そのためにも市民と野党の共闘が重要です。またとないチャンスを活かす選挙にしましょう。

「アベ政治許さない」の声が政権を追い詰める

安倍政権は衆議院でも参議院でも3分の2以上の議席を有しています。5月3日には憲法第9条を改悪するとの執念を表明して、今度の臨時国会には自民党案を提示し、来年の通常国会で発議するとの戦略を描いて、そのための党内議論を加速させていきました。その憲法改悪に必要な「衆参3分の2」を投げうっての解散総選挙です。安倍政権がどのような大義名分を掲げようが国民的反撃を受けての「追い込まれ解散」であることは明らかです。

「国政私物化」と悪政に対する厳しい審判を

「森友問題」や「加計問題」、南スーダンの「日報問題」などにみられる「情報隠し」と「国政の私物化」に対する国民の批判が安倍政権を追い詰めました。その結果が東京都議選挙に於ける自民党の歴史的惨敗です。野党4党は憲法の規定に基づき速やかに臨時国会を開催することを求めてきました。そして、ようやく開かれる臨時国会です。その冒頭に解散して行くことは、安倍首相が如何に「森友問題」、「加計問題」、「日報問題」に対する国民的な批判を恐れているかがわかります。この選挙をこれらの問題の「みそぎ」にさせてはなりません。アベノミクスの失敗も、社会保障の切り捨ても、安保法制Ⅱ戦争法・共謀罪等の悪法も免罪させてはなりません。この選挙を、安倍政権を退陣に追い込む選挙にしましょう。

またとないチャンスを活かして攻勢的な選挙にしよう

安倍首相には焦りがあります。憲法改悪の野望を実現するには、自分に対する国民の不信が高まり、時間も1年数か月しか残っていないからです。民進党が混乱し野党共闘が整わないうちに、また、小池新党が準備できないうちに選挙をして、再度3分の2以上を獲得しようという作戦です。自民、公明、維新、小池新党で3分の2以上を獲得しようとする思惑です。そうすれば、「みそぎ」も済み期間ももう1年延ばすことができ、時間的な余裕ができるからです。他方、憲法改悪を止めさせたい私たち国民からすると最大のチャンスが訪れたこととなります。改憲の発議を止めるには解散総選挙に追い込むことが必要だったからです。安倍政権は重要な問題で国民の信を問う選挙をしたことがありません。秘密保護法も、安保法制Ⅱ戦争法も、共謀罪も国民の信を問うことなく強行しました。今度はそのような卑怯な手法は通用しません。憲法改悪阻止と安倍政権を退陣に追い込むことは一体で

共闘で迎え撃とう



上智大教授 中野 晃一さん

ようやく開かれる臨時国会の冒頭で解散するというのは、3分の2という圧倒的多数を持つていても、森友・加計疑惑の追及を受け、まともに審議もできず、共謀罪を審議打ち切りで強行するなど法律をまともな形で通すこともできない中で、「こんな国会なくなってしまう」という安倍首相の気持ちのあらわれでしょう。

立憲主義回復・戦争法廃止に加え、苦勞してつくなってきた雇用や生活保障の政策もあり、臨戦態勢はすぐに取れます。民進党の一部に共闘への揺らぎがありますが、安倍さんが選挙にうって出るとなれば、おのずから共闘なしには勝てないというところに向かわざるを得ず、求心力も生まれてくるでしょう。市民の側も声を出し、共産党を含む立憲野党の共闘へかじを切るようにしていきたいと思えます。

安倍首相は野党の揺らぎに乗じて勝てると思っているかもしれません。しかし、急落した支持率が少し回復したとはいえ、人柄が信用できないとか政策が支持できない

(しんぶん赤旗 2017年9月18日号より)

改憲阻止3千万署名スタート

「安倍9条改憲NO!全国市民アクション実行委員会」が結成されました。「安倍9条改憲NO!」憲法を暮らして生かす全国統一署名」を3千万人分集めることが提起されています。戦後70年に渡って日本が海外で戦争をしてこなかったのは9条があったからです。今、9条を変えたり、書き加える必要はありません。民商もこの運動の一員として3千万人署名を大きく広げ、平和な日本を子供たちに残していきたいでしょう。

追い込まれて解散 安倍退陣・9条改憲阻止の総選挙に

お買い物は地元市場商店街で・商工業者の繁栄は市民と共闘で!

全国市民アクションの発起人は次の通り。(敬称略)

- 有馬頼底(臨済宗相国寺派管長) / 内田樹(神戸女学院大学名誉教授) / 梅原猛(哲学者) / 落合恵子(作家) / 鎌田慧(ルポライター) / 鎌田實(諏訪中央病院名誉院長) / 香山リカ(精神科医) / 佐高信(ジャーナリスト) / 澤地久枝(作家) / 杉原泰雄(一橋大学名誉教授) / 瀬戸内寂聴(作家) / 田中優子(法政大学教授) / 田原総一郎(ジャーナリスト) / 暉峻淑子(埼玉大学名誉教授) / なかにし礼(作家・作詞家) / 浜矩子(同志社大学教授) / 樋口陽一(東北大学・東京大学名誉教授) / 益川敏英(京都大学名誉教授) / 森村誠一(作家)

(しんぶん赤旗日曜版 2017年9月10日号より)